

発生概要

◆令和8年9月末 電話でお金詐欺(特殊詐欺)被害認知件数・被害額 前年同期比(暫定値)

区 分		令和7年中		令和7年9月末		令和8年9月末		前年同期比			
		件数	被害額(円)	件数	被害額(円)	件数	被害額(円)	件数	増減率	被害額(円)	増減率
電話でお金詐欺(特殊詐欺)合計		454	3,849,463,344 (25,150,000)	312	2,716,713,482 (18,335,000)	427	2,920,426,376 (40,931,000)	115	36.9%	203,712,894 (22,596,000)	7.5% (123.2%)
内 訳	ニセ警察詐欺	120	1,242,896,351 (8,357,000)	78	781,089,410 (8,357,000)	83	898,993,018 (20,000,000)	5	6.4%	117,903,608 (11,643,000)	15.1% (139.3%)
	オレオレ詐欺	15	86,000,000 (1,000,000)	13	65,620,000 (1,000,000)	95	197,501,173 (4,317,000)	82	630.8%	131,881,173 (3,317,000)	201.0% (331.7%)
	預貯金詐欺	7	13,145,000 (13,145,000)	5	6,330,000 (6,330,000)	6	4,537,000 (4,537,000)	1	20.0%	-1,793,000 (-1,793,000)	-28.3% (-28.3%)
	キャッシュカード詐欺盗	5	2,648,000 (2,648,000)	5	2,648,000 (2,648,000)	9	12,077,000 (12,077,000)	4	80.0%	9,429,000 (9,429,000)	356.1% (356.1%)
	架空料金請求詐欺	76	241,231,172	53	206,603,737	51	101,185,396	-2	-3.8%	-105,418,341	-51.0%
	還付金詐欺	17	20,142,135	16	19,647,118	13	17,218,297	-3	-18.8%	-2,428,821	-12.4%
	融資保証金詐欺	7	3,175,182	7	3,175,182	6	3,085,000	-1	-14.3%	-90,182	-2.8%
	金融商品詐欺	11	64,624,498	10	59,328,388	10	69,055,548	0	0.0%	9,727,160	16.4%
	ギャンブル詐欺										
	交際あっせん詐欺	12	52,722,549	8	28,640,845	7	11,422,599	-1	-12.5%	-17,218,246	-60.1%
	SNS型投資詐欺	75	1,032,023,700	44	638,704,176	78	960,859,641	34	77.3%	322,155,465	50.4%
	SNS型ロマンス詐欺	103	1,083,448,187	69	899,671,456	67	633,889,704	-2	-2.9%	-265,781,752	-29.5%
	その他の特殊詐欺	6	7,406,570	4	5,255,170	2	10,602,000	-2	-50.0%	5,346,830	101.7%

※下段括弧内は、被害品のキャッシュカードを使用して、犯人が払出した金額等（内数）。
※令和8年4月から、ニセ警察詐欺をオレオレ詐欺から独立した手口として位置付けたほか、SNS型投資・ロマンス詐欺を電話でお金詐欺（特殊詐欺）の一手口と位置付け、これら全体を電話でお金詐欺（特殊詐欺）として整理しています。

【認知状況】 ※1万円未満切り捨て

- 9月末までの認知件数は427件（前年同期比＋115件）、被害額は29億2,042万円（前年同期比＋2億371万円）、1件当たりの被害額は683万円（前年同期比－186万円）であり、被害件数・被害額ともに増加した。
- 9月末時点で発生が多い手口はオレオレ詐欺が95件、ニセ警察詐欺が83件、SNS型投資詐欺が78件、SNS型ロマンス詐欺が67件であった。
- 犯人からの接触方法は、電話が215件、SNSが170件、ウェブサイトが29件、電子メールが13件であり、接触方法が多様化している。
- オレオレ詐欺において、犯人が最初に名のった身分は息子や孫等の親族が85件、医療機関が4件、暗号資産交換業者と金融機関がそれぞれ3件であった。
医療機関と金融機関については、いずれも息子等の親族を名のる者に電話をつなげるものであり、最終的に息子や孫等かたりの手口が全体の9割以上を占めた。
息子等の親族を名のる手口の約8割は実名を名のっていることから、何らかの名簿に基づいて架電している実態が認められる。
- オレオレ詐欺における犯人からの接触方法は、92件（96.8%）が固定電話であり、犯行に利用された電話番号として判明している21件中9件（42.9%）が国際電話番号であった。
- 「口座が犯罪に利用されている」などと言って、キャッシュカードをだまし取る預貯金詐欺やキャッシュカードを準備させた上で隙をついてトランプ等とすり替えるキャッシュカード詐欺盗が夏場以降、散発しているため警戒が必要。